

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100758		
法人名	医療法人 高信会		
事業所名	真ごころグループホーム	ユニット名	2号館
所在地	宮崎市大字郡司分乙802		
自己評価作成日	平成28年12月21日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&liyosvoCd=4590100758-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は見晴らしのいい高台にあり、ホールからは壮大な眺めが広がり、開放感がある。利用者様は行動を制限することなく、自由に行き来され、一人ひとりにあった支援や、関わりを多く持ち、信頼関係を築くように努めている。職員間では、ほう・れん・そうの徹底をし、利用者の少しの変化でもミーティングを開き、意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。食事の献立は管理栄養士が作成し新鮮な食材が毎日配送され、安心安全な食事の提供を行っている。また、母体が医療と介護の複合施設を持つ辰元病院であり、利用者様の状態の把握、健康管理に努め、様々な施設と連携を図り、適切な対応が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年のホームである。管理者を中心に、職員が働きやすい環境を整えることに努力している。介護支援専門員を各ユニットに配置し、研修制度も充実しており、職員の定着率が高い。理念の見直しを全職員で行ったことで、職員の意識も向上してきている。職員は利用者と同じ目線で接し、利用者の生活歴を十分に踏まえて対応している。また、毎日の食事の前に利用者と職員がラジオ体操を行い、利用者の咀嚼や嚥下の状況に合わせた食事形態で提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットホールに掲示している。またユニット理念をユニット職員で作成し、ユニット入居者に合った統一したケアに努めている。	ユニットごとの理念を全職員で見直し、わかりやすい言葉で3項目に整理している。毎日唱和し、月に1度は深く読み取る日と意識付け、理念の共有と実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーへ買い物に行ったり散歩に出掛け地域の人と挨拶を交わしたりして交流を図っている。	地域の神社が開催する新嘗祭に誘われ、参加している。利用者にも好評で、徐々に地域との交流が図られつつある。自治会への参加も視野に入れ、ホームの催しなどの情報も発信していきたいと努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協主催のふれあい大会や地域の催し物に参加させて頂き地域の方たちとゲームを行うことで認知症の人の理解を得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの取り組み状況や事故、ヒヤリハットについて報告、説明を行っている。その中で意見をサービス向上に活かしている。	ホームの現状報告が多いが、参加者との意見交換により地域の祭りに参加することができた。活発な会議とするため、職員からの意見を求めるなど運営方法の改善に努めている。	活発な議論の場となるように、事前にテーマを周知し、継続課題を明確にするなど、会議の運営について工夫することを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し分からない事等を相談している。また市が実施している。研修会に参加している。	市主催の研修会には参加しているが、管理者自身が直接市に出向いて相談をする機会はほとんどない。日常の業務に関連することは、母体の本部が協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関をオープンにし自由に遊歩道内を散歩して頂いている。危険な行動以外は止めないケアに努めている。	言葉による拘束が疑われるような場合は、その時点で注意したり、月1回の職員会議で検証している。事故を懸念するあまりに拘束してしまわないように、利用者への目配り、気配りを怠らないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会や研修で高齢者虐待について学べる機会を設け虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の後見人様と連携を図り情報の共有を行っている。それを通して職員間で学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約改定時は十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ねている。不安点を解消し安心して利用して頂くように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やその家族が意見や要望を言いやすいような雰囲気作りに努め運営に反映させている。面会時には日頃の状況をこまめに報告し信頼関係づくりに努めている。	従来、家族の来訪時に利用者の状況説明は行ってきたが、家族の意見を聞くという姿勢が若干不足していた。現在は担当職員以外でも家族の来訪時に面談した職員が意見を聞くよう改善、実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回と必要に応じて個別に面談を行い反映させている。意見、提案が言える職場の雰囲気作りに努めている。	管理者は、職員が節度を持ちつつも意見が出しやすいような雰囲気づくりを心掛けている。また、職員の定着率が高くなるよう、年に2回の面談を通して十分に意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の努力や実績、勤務状況を把握し面談を設けやりがいや向上心を持って働けているかを確認しながら職場環境、条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際と力量を把握し日々の業務の中でトレーニングを行いながら職場内外の研修を受ける機会の確保に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修の機会を増やし同業者との交流を勧めると共に、今後は相互訪問等の機会を作りネットワーク作りやサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する初期段階で御本人が不安に思っている事、要望等に耳を傾け少しでも安心出来るような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に御家族が抱えている問題を出来るだけ理解し、不安や要望に耳を傾け一緒に支援方法安心出来る関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で御本人と御家族の観察と傾聴に努め必要としている支援と他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に人生の先輩として教えて頂く事もあり共に支え合って喜びや楽しさを分かち合える関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の気持ちや要望を踏まえたうえで可能な限り協力をお願いし、本人や御家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に気軽に来て頂けるような雰囲気作りに努めている。また家族の協力のもと大事にしていた畑に連れて行って頂いたり自宅に帰ったり馴染の理容室に行けるよう支援している。	家族や身内との関係継続が主であるが、家族の協力も得ながら地域に出向き、体力の向上に努めている利用者もいる。帰宅願望の強い利用者には、家族と話し合いながら、利用者の思いがかなえられるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合い支え合えるよう、安全に留意しながらさりげなく中に入り一人一人が孤立しないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、転居先への情報提供や退去後も御家族様が気軽に立ち寄りたり連絡を頂ける雰囲気作りに努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、関わりを多く持ち会話、表情、行動等から入居者の思いを汲み取り職員間で情報を共有している。困難な場合は御家族からも情報収集し本人本位に検討している。	自分の思いを伝えることが難しい利用者には、利用者の気持ちに沿って支援することを心掛けている。表情、仕草、行動等から意向や思いを読み取り、職員同士で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や経過シート等による情報収集と御本人、御家族からの情報も頂き、これまでの生活が継続出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや心身状態を把握し様々な変化に気付けるよう注意している。申し送りノートを活用し情報の共有をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・御家族様・職員から意見を聞き入居者様にとって何が重要かを担当者会議で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。御家族の要望や状態の変化に合わせ介護計画を見直している。	受け持ち制をとっているが、担当者会議で情報を共有し、さらに家族の意見も加味して介護計画を作成している。見直しが生じた時は随時計画の変更を行っている。現在、職員一人ひとりがモニタリングまでできるレベルを目指して努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・気づきを毎日、個別に記録している。毎月末に評価を行い、介護計画の状況や見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様に協力して頂き医療機関や専門職のアドバイスを受けながら連携を図り、ニーズに合わせて対応出来る様に努めている。			

宮崎県宮崎市 真ごころグループホーム(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの来訪や地域行事、公民館行事に積極的に参加している。運営推進会議にて情報を得て地域との交流を深めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の希望される病院や入居前からのかかりつけ医に受診される方がおられる。御家族が付き添われる場合は、情報を共有し主治医へ御家族様から直接相談される機会がある。利用者の状態によっては職員も付き添っている。	基本的には家族が同行し、かかりつけ医を受診している。かかりつけ医、家族、本人、ホームが情報を共有し、利用者が安心してホームで生活を送ることができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や気付きは、随時看護師に報告し、助言を受け適切な医療・看護を受けられるよう支援している。看護師とは、常時連絡が取れる体制となっている。看護職の知識による職場内研修も行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーを作成し病院関係者とカンファレンスを行い情報提供を行っている。入院中は出来るだけ面会に行き病院関係者と情報交換、連携を密に行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し、理解をして頂いている。又、重度化した場合は、主治医と連携を図りながら家族様・ユニット別職員間で話し合い、その人に合った方針を決めている。	重度化した場合の対応については、入居時に説明を行い同意を得ていたが、現在は毎年1回見直しを行っている。看取りの経験はないが、家族の意向を尊重しつつ、ホームのできること・できないことを明確にして対応していくことを話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、急変や事故発生時に対応出来る体制がある。救急蘇生法の外部研修や職場内での勉強会も行っている。研修や勉強会の機会を増やし、実践力を身に付ける必要がある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回総合防災訓練を行っている。入居者様の参加される。夜間帯想定訓練も行っている。職員全員が危機意識を持ち避難の方法や対応を学ぶ必要がある。非常食の準備も行っている。	火災を想定した避難訓練を毎月行い、専門業者による訓練を年間2回実施している。本番を見据えた夜間訓練や地域の協力を得るための体制作りが課題として残っている。3日分の水や食料の備蓄を確保している。	運営推進会議の場を利用して、近隣住民に参加協力を呼びかけ、また、協力者に依頼する役割についても協議することを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しプライドを傷付けないような優しい声掛けをしている。本人の意思に沿った対応を行っている。	利用者と同じ目線で声掛けを行うようにしている。時には手を添え、行動を共にして利用者の気持ちに沿うようにしている。また、利用者の生活歴を十分理解して対応するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるような雰囲気作りや自己決定が出来るような働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく利用者本位の一人一人のペースに合わせた支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の洋服は本人に選んで頂くような働きかけを行っている。自己にて整容が難しい方には援助を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日のメニューをホワイトボードに書き出し食事が楽しみになるような会話を行っている。利用者の状態に合わせて自助食器等、自分で食べる事が出来るよう支援を行っている。テーブル拭きや下膳等も見守りの中で行って頂いている。	利用者には関連施設から配送された食材を盛り付け、職員は弁当を持参し、一緒に食卓を囲むようにしている。1日のメニューをホワイトボードに書き込み、食事を楽しみのあるものに行っている。テーブル拭き・下膳等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし一人一人の状態の把握に努めている。好みの習慣に応じて声掛けや提供の工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った声掛けやを口腔ケアを行っている。自ら出来ない方には、介助を行っている。義歯消毒も夜間に行っている。必要に応じ歯科往診の支援も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握すると共に行動や表情等を観察しトイレ誘導する事で失敗の回数を減らせるように、努めている。	利用者の排せつパターンに沿って声掛けをしている。夜間も声掛けはするが、時間で起こすことは避け、利用者のペースに合わせて促している。失禁時には入浴、更衣に導き、快適に過ごしてもらえるよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を行い、食事は管理栄養士によるバランスの良い食事提供が来ている。食事摂取量が少ない方は家族と相談し好きな物を食べて頂けるよう支援している。又、散歩や体操等を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否があれば時間をずらしたり声掛けの職員を交代したり音楽を流したりと、本人のタイミングで入浴をしてもらう事に努めている。入浴が行えない時には無理せず翌日に対応をしている。	基本的に週に2回の入浴となっているが、利用者の希望に沿って入浴できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息・安眠の支援に努めている。自ら休息がとれない方は声掛けを行い、居室等に誘導し本人の意思に沿うように休息をして頂いている。また日中に寝すぎないように適度に離床も促している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の目的や副作用等を理解している。下剤や眠剤等は状態に合わせて主治医相談のもと調整を行っている。薬の変更時は入居者の身体状態の観察・記録を徹底する事と、申し送りノートをかつようしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭きや洗濯物たたみ等の役割を持って生活をして頂いている。趣味や近隣散歩等の気分転換の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前の遊歩道や施設周辺の散歩をして頂いている。本人の希望に沿って出来る限り散歩を行っている。又、家族協力のもと外出の支援を行っている。	個別の外出は、家族の協力を得て行うことが多いが、時には職員が利用者の希望に沿って出掛けることもある。年間計画を立て、月に1度はみんなで外出をする機会を設けている。日常的には近隣の遊歩道や農道を散歩して、季節の移ろいを感じてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の問い合わせや不安時には安心出来るよう丁寧に説明、対応を行っている。近くのスーパーで見守りの中、自分で選び買って頂いている。また小遣い帳へレシート添付、記帳し家族への報告や相談を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員と共に電話を掛けて話して頂いたり年賀状等の手紙も一緒に書いたりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやソファを置き居心地の良い共用空間作りに努めている。カーテンや冷暖房にて採光や温度、湿度等の配慮をしている。	壁飾りはすっきりとまとめ、ソファも安全性を考慮した位置に配置している。利用者が起きている時間の大半を過ごすホールは、日当たりがよいため、カーテンで遮光をするなど落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を工夫し共用空間の中でも独りになれたり楽しく会話が出来空間作りとそれを自己にて選ぶ事が出来るよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の思いを大切に使い慣れた馴染みの物を置き、居心地良く過ごせるよう努めている。	居室の掃除や整理・整頓は利用者が可能であれば一緒に行い、毎日気持ちよく快適に過ごせるように努めている。空調の苦手な利用者には代替品を使用するなど、家族や本人の希望に沿うようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等、分かりやすい様に示したり一人一人の力が安全に活かされるような環境作りに努めている。			